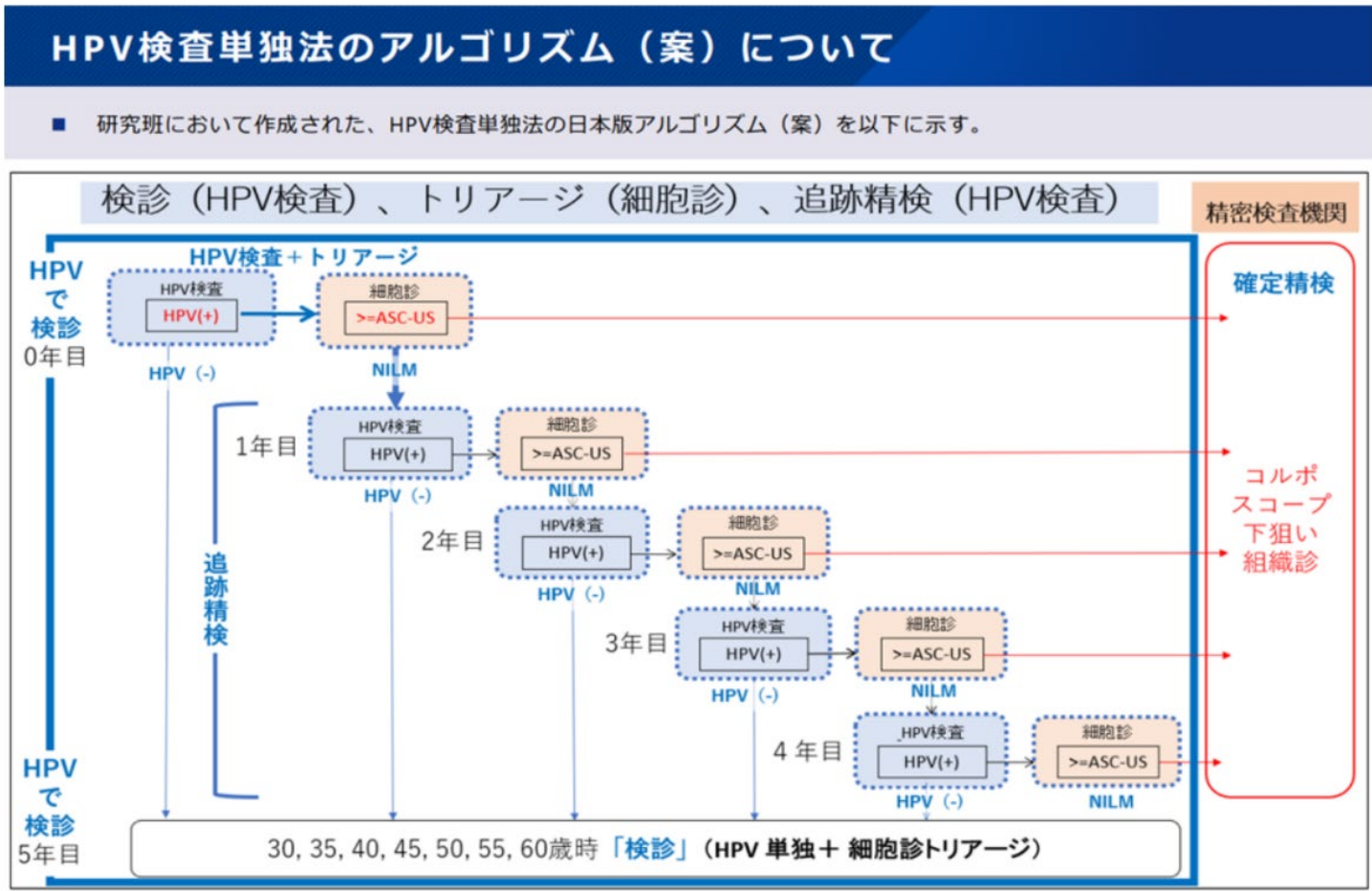


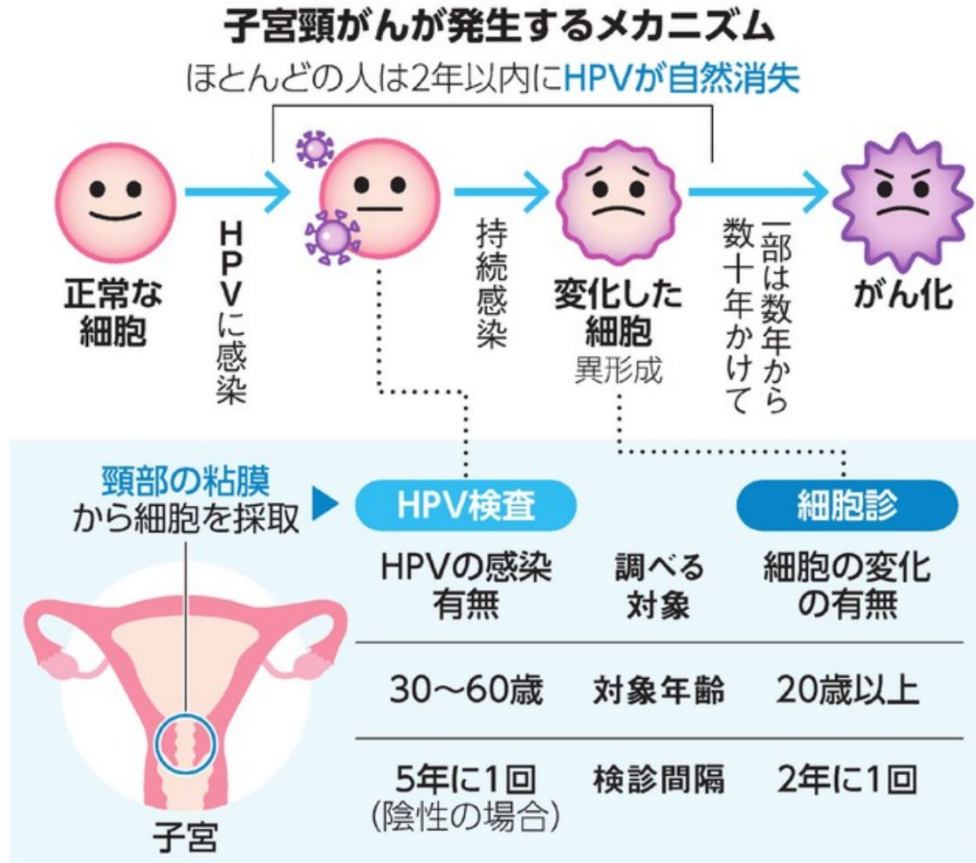
① HPV 検査単独法導入時の検査の周期



HPV単独法を導入した場合のアルゴリズム案（がん検診あり方検討会1 230809）

②HPV 検査と細胞診

質問時使用パネル



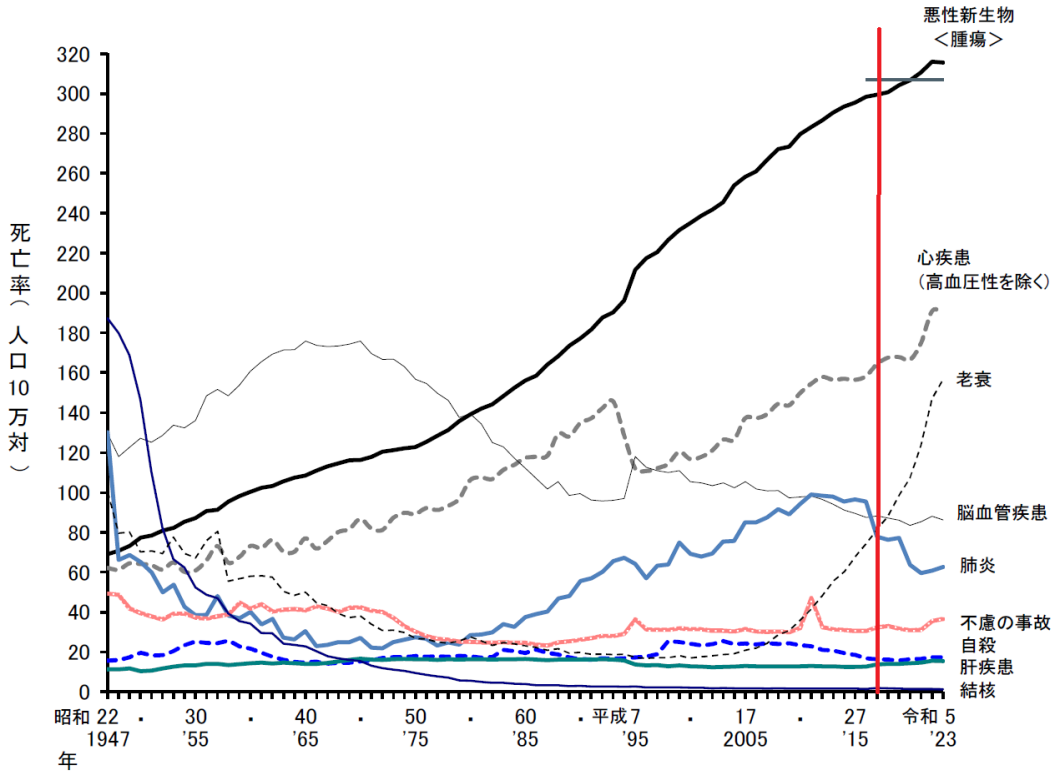
子宮頸がんが発生するメカニズム

©朝日新聞デジタル2023年11月11日 16時00分付

HPV検査単独法選択可
フォローアップ体制を!
5年に1度検査可
細胞診より負担減

①厚労省「令和5年人口動態統計月報年計(概数)の概況」

図6 主な死因別にみた死亡率（人口10万対）の年次推移



②肺炎の原因となるウイルス感染症

RSウイルス感染症²⁾

潜伏期間 4～5日

主な症状 鼻水、咳などの上気道の症状や発熱、など

経過 多くの方はそのまま数日間で回復するといわれている。一部の方は喘鳴、呼吸困難などの下気道の症状が出現し、細気管支炎や肺炎へと進展することもある

インフルエンザ³⁾

潜伏期間 1～3日

主な症状 寒気、高熱、全身の倦怠感、など

経過 通常は約1週間で軽快するが、高齢者や、呼吸器・循環器などに慢性疾患を持つ患者、免疫機能が低下している患者では原疾患の悪化や肺炎など合併症のリスクが高まる

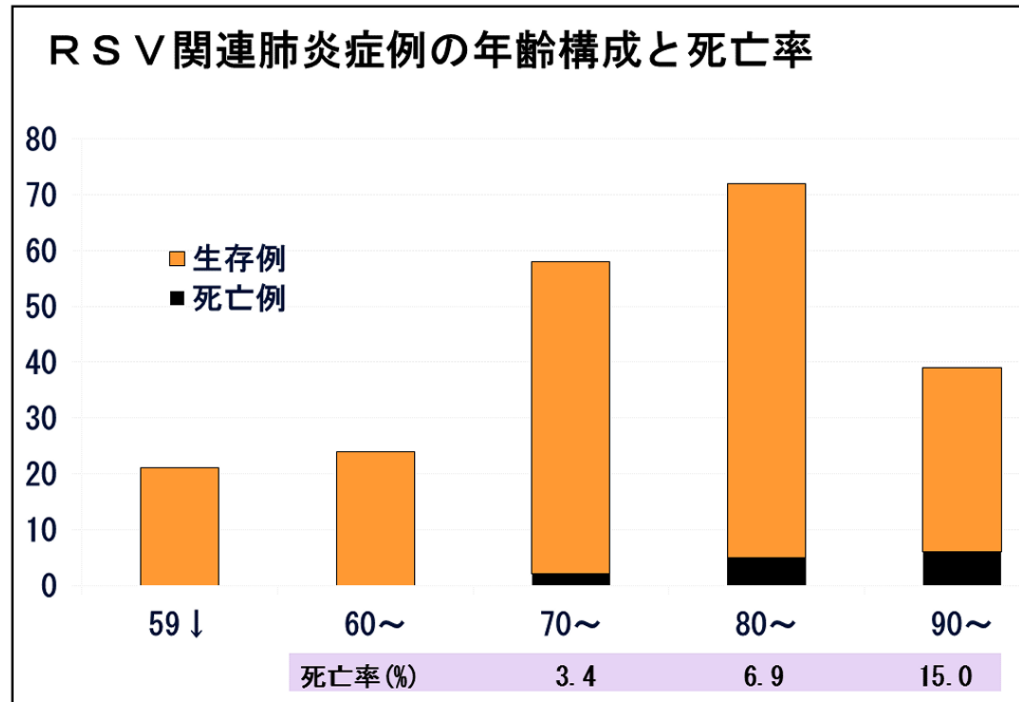
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)⁴⁾

潜伏期間 2～7日（多くは2～3日）

主な症状 発熱、呼吸器症状、倦怠感、頭痛、など

経過 鼻やのどからの上気道への感染から始まり、多くは発症から1週間程度で回復に向かうが、感染が気管支や肺などの下気道まで進展する場合もある

③



©高橋洋「感染症TODAY」,2018.10.31放送

質問時使用パネル

高齢者肺炎予防対策

RSウイルス周知啓発を!

肺炎死亡横ばい

ワクチン助成も